

高校生と川崎市議会議員の意見交換会 高校生の主な御意見

令和7年12月23日開催

意見交換会では、「市制100周年+1 これからも住み続けたいまち 川崎」を主題に意見交換を行いました。

【安心して暮らせる街】

- ・視覚障害者の方と話す機会があり、災害時に市がどういった支援ができるか、視覚障害者の方でも災害時に支援の担い手となることは可能か考えたことがある。災害時の取組において、自助・共助・公助の取組が重要である。
- ・健常者と障害者が共に学べる教育（インクルーシブ教育）について調べている。海老名市はフルインクルーシブ教育推進市町村に今年度指定され、取組が活発化している。本市においては、施設設備等のハード面及び認知度の不足といった面などで課題があると認識している。
- ・水泳部に所属しており、川崎インクルーシブ大会に参加したことがある。在学中の高校では、障害者の水泳大会の運営にも携わっており、スポーツや教育以外にも、身近な事柄からインクルーシブについて理解を深める機会があればよいと思う。
- ・能登半島地震のボランティアをしたことがあり、その中で感じたのは共助の取組が不足することで災害リスクが増加することである。本市で町内会等の地域コミュニティが希薄化している現状に対して懸念している。
- ・福祉や障害、家庭背景などによる見えない差別を無くなることが望ましい。
- ・障害者の「区分」の在り方、診断と制度の関係性、グレーゾーンの層の支援がどうあるべきか今後検討が必要と思われる。
- ・カナダへの留学経験があるが、そうした経験を通じて、本市も多様なルーツを持つ人を市民として歓迎し、安心して暮らせるまちを目指してほしいと思った。
- ・地元で勉強できるスペースが少ない。近所の図書館は閉鎖されてしまっており、近くのこども文化センターが遠く、利用しづらい環境にある。駅周辺施設等にあれば利用しやすい。
- ・こども文化センターは、「こども」という名前が付いているので、中高生が使いづらい実情がある。利用しやすくなるような名称を付けてもらえると嬉しい。
- ・ひとり親家庭等で経済的余裕がなく、大学などへの進路を悩んだり夢を諦めたりする家庭が現実としてある。大学進学、交通費などの負担軽減及び返済不要の奨学金を増やすことで住みやすく安心できる街にしてほしい。
- ・学校に何名か不登校の人がいる。学校に通えない学生が集う場があると、他都市の事例に関するニュースを見たことがある。川崎市においても同様の取組が一層推進されることを望む。
- ・スマートフォンの使用が一切禁止されている私立高校や、使用が認められていてもWi-

F i 環境が整備されていない学校、整備されていても通信速度が遅い学校など、学校におけるW i - F i 環境が様々であることを今日の意見交換の場で初めて知った。

- ・体操着の着替えルールに関して、体育の授業の前後の休憩時間に着替えが必須となり、遅刻や次の授業に間に合わないなどの課題がある。
- ・自分の通う学校の体育館は、夏季は非常に暑く、同級生等からも改善してほしいとの意見を聞いている。早期の空調整備をお願いしたい。
- ・各生徒の意見を生徒会で取り上げることのできる学校、学級委員がクラスごとに取りまとめた意見を生徒会で議論し教師に提案できる学校、そもそも意見募集の仕組みがない学校など、学校によって特色があることが分かった。
- ・自身の経験として、銀柳街や川崎駅東口周辺で声をかけられたり付きまとわれたりすることがあり、治安の悪さを感じる出来事が多かった。改善に取り組んでほしい。
- ・小中学校の通学路になっているコンビニ前や、ガス橋等の高架下にたむろする人に対して不安を感じる。
- ・夜間に帰宅する際、暗い場所や駐輪場及びバス停付近で不審者に声掛けされた経験などがある。市として街灯や防犯カメラの設置など治安向上の取組を行ってほしい。
- ・通学路付近において、学生だけでなく大人を含め、逆走、無灯火、スマホを見ながらの運転など、危険な行為を日常的に目撃する。対策や啓発をお願いしたい。
- ・交通安全の面において、自転車レーンの設置等で改善は見られるが、住宅街での一方通行の無視やスピードの出し過ぎで危険を感じることもある。
- ・夜間、自転車のライトを点灯していたとしても街灯が少なく暗い場所があり、走行が怖いと感じる。

【多様な文化を育む街】

- ・川崎市は音楽のまちであり、ミュージア川崎やカルッツかわさき等の音楽を行うための施設やストリートピアノも設置されているため、本市の良さを生かして外部に魅力を発信してほしい。
- ・川崎駅周辺は路上ライブやミュージア川崎シンフォニーホールがあつて音楽のまちとしてイメージできるが、多摩区や麻生区などは音楽のイメージが弱く、市内において地域差が大きい。各区でもっと音楽文化を発信できたら良い。
- ・川崎市の魅力は音楽、自然、スポーツ、アートなど多様であり、区ごとに特色がある。市として、各区の魅力を発表・共有できるイベントを設け、特色をいかした多文化共生のまちづくりを進めるべきだと考える。
- ・チネチッタ周辺等ではイラストレーションが描かれている場所があつたり、溝の口駅前はブレイキンノ聖地になっていたりするため、音楽だけでなく芸術の街として認知されたい。
- ・日本の伝統文化である茶道や華道も広めたいと考えているが、後継者不足で衰退しつつあ

る。そのため、学校や地域で積極的に伝統文化に触れる機会を増やし、歴史や文化を次世代に継承する取組が必要だと考える。

- ・カナダ留学で多文化共生の重要性を実感した。川崎市はヘイトスピーチ禁止条例を制定したが、条例のみではなく、区及び地域での取組やボランティア活動を通じて、差別の根本をなくし、多文化共生をさらに進める先進的なまちになってほしい。
- ・文化を受け入れるためには、否定する人を減らすことが重要である。否定の背景には歴史、偏見、治安及びマナー等の印象がある。そのため、川崎市の良さを積極的に発信し、良い印象を広めることが大切であり、人から人へ広がることで、文化を受け入れる土壌が生まれ、相互に受け入れ合う関係につながると考える。
- ・南武線沿いの登戸駅等の発車メロディがご当地メロディでなくなったことが残念である。

【魅力ある都市景観を備えた街】

- ・川崎市は工業地帯のイメージが強く、緑、自然が足りないと感じる。緑を増やし、工業と緑の調和が取れたまちづくりを進めることで、市のイメージアップを図ってほしい。
- ・喫煙所内の匂いが外まで漏れていることや、喫煙所が混雑しており喫煙所の外で喫煙する人等がいるため、喫煙所に関わる問題を解消してほしい。
- ・日頃街中で落書き、たばこの吸い殻及び空き缶のポイ捨てを見ると不快であり、綺麗な街は住みづらいつと感じる。街中のごみ箱の設置数が少ないと感じるため、設置数を増やすことでポイ捨てを減らすことができるのではないか。
- ・川崎市外に住んでおり、登校時に川崎市の街を見るが、駅前でごみ拾いをする人を見かけるものの、その後、同じ場所を通りかかるとまたごみが落ちていることが多い。自販機等の近くにゴミ箱を置かない場所が増えていることが課題だと考える。
- ・川崎駅周辺でゴミ拾いや落書き消しのボランティアを4年間続けており、落書き消しは減少傾向にある。ボランティア活動を広めることで、ゴミ問題や落書きの放置を防ぐ抑止力になると考える。
- ・市内南部の港湾部周辺を訪れた際、放置自転車のかごにごみが詰められており、ごみ拾いのボランティアを始めようと思った。
- ・飲み屋街やパチンコ店があって治安に対するイメージが悪い川崎駅周辺や溝の口駅周辺について、安心できる平和なイメージを抱けるようになってほしい。

【チャレンジできる街】

- ・防災に関心を持っており、若者が気軽に参画できる環境づくりは大切である。自分のやりたいことや広めたいことを行動に移せる場があることは、非常に貴重かつ重要である。
- ・前に出るのが得意ではなく、大きな活動よりも小さな挑戦から始めたい。市の企画で段階的に取り組むことができるイベント等が増えれば、多くの人が参加しやすくなると考える。

- ・一人で行動するのは勇気が必要で、最初の一步を踏み出せる人は少ないと感じる。学校や市がイベントや課外授業を企画すれば、挑戦する機会が増え、社会貢献にもつながると考える。コロナ禍の時にそうした機会が失われたことを体感しているため、このような機会をもっと増やすべきだと考える。
- ・軽音部や合唱系サークルで音楽活動をしているが、発表の場が少ないと感じている。そうした場所の整備をお願いしたい。
- ・市議会議員が普段こういった活動を行っているか知らないため、興味があった。

【活気にあふれる街】

- ・最近の授業で特別市に関して取り上げられる機会があり、市議会における特別市制度の議論について興味がある。
- ・昨年秋と今年春に実施された全国都市緑化かわさきフェアのようなイベントを年1回の頻度で実施してほしい。今まで川崎は工業のまちというイメージが強かったが、イベントを通じて市内に自然が多くあることを知った。また、フェア開催会場の市内3か所では市南部から北部にかけて景観の移り変わりを感じ、面白いと思った。
- ・フェア会場だけでなく、会場までの道路にも植栽などの飾り付けが施されていたところがとても良かったが、フェア終了後に片付けられてしまったので残念であった。
- ・武蔵小杉周辺における町内会の解散について、防災時の対応、地域のつながりの希薄化が懸念されるため、地域コミュニティを維持していくべきであると考えます。
- ・地域のお祭りでは神輿の担ぎ手が減少傾向にあり課題となっている。若い人が参加しやすい仕組みを検討すべきと考えている。
- ・中高生だと部活動や受験勉強などもあり、地域行事への関心が薄れがちであるため、小学生までの子どもへ向けてもっと地域行事の楽しさを伝えていくことが重要だと考えている。
- ・町内会のどんど焼きが学校の校庭で行われ、参加して楽しかった思い出がある。町内会行事を積極的に学校で実施すると、地域の子どもがより参加しやすいのではないかと。
- ・商業施設では、若者が集まると騒がしいなど周囲から否定的に見られる場合があるため、友人同士で心地よく利用できる施設などが求められている。